

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	10703001195
法人名	医療法人 岩下会
事業所名	岩下病院 グループホームあさがお
所在地	群馬県桐生市宮本町1丁目8-33 (電話) 0277-20-8131

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年10月30日

## 【情報提供票より】(20 年10 月4 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 12 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.2

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要 (10 月 4 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2		1 名	
要介護3	7 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 75 歳	最低	86.7 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	岩下病院 藤江医院 内藤歯科
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員研修を充実させて、事業所としてケアサービスの質の向上を目指し取り組んでいる。利用者は一人ひとりが自分の役割を持ち、職員と一緒に力を発揮して、利用者のペースで過ごせるような支援に取り組んでいる。居室環境は一人ひとりが馴染みの物などを生活スタイルに合わせて持ち込まれており、家に居るような居心地の良さがあるように配慮されていた。利用者同士の会話が多く見られて和やかさも見受けられた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①運営推進会議を活かした取り組み②市町村との連携③入浴を楽しむことができる支援④鍵をかけないケアの実践等については昨年と状況は同様である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と全職員が話し合い、作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成20年4月に開催されているがそれ以降は開催されていない。今後は定期的開催し、参加者から意見や要望を聴き、話し合い、運営に反映させる取り組みを課題とする前向きな姿勢がうかがえた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議には家族の参加があり、意見や要望等を聴いている。家族等の来訪時にも、暮らしぶりや健康状態等の報告をし、意見や要望等も聴くようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し廃品回収等に協力している。散歩時や近隣に買い物に行く等で挨拶や話をするようにしている。夏祭りや子供みこしの見学をする等で地域交流をしている。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成20年秋、管理者、職員の異動を機に全員で話し合い、「1人ひとりの思いを大切に自分らしく生活できる自由と安らぎ……」と事業所独自の理念を掲げている。	<input type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で作上げた理念の実践に向けて、共有が図られている。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、廃品回収等には協力している。散歩時に挨拶を交わす、近隣に利用者や買い物に行く、夏祭り、子供みこしの見学等地域交流をしている。	<input type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成し、職員に見てもらい意見を取り入れて完成させた。	<input type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年4月に開催し、利用者の様子、活動状況等の報告を行い、参加者から意見や要望を受け話し合うようにしているが、定期的には開催はされていないのが現状である。	○	運営推進会議は地域の理解と支援を得るための貴重な機会であり、報告や情報交換に留まらず、話し合いを通じて参加者から率直な意見を頂き、それをサービスの向上に活かしていくことが重要であるため、定期的開催をされることの取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市担当窓口に対して、事務長が代表して出向いて情報交換等を行っているが、管理者は窓口を訪れる機会がない。	○	管理者は多忙ではあるが機会を作り、市担当窓口を訪れ事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れ伝え、連携を密にされることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族等の来訪時には、健康状態や暮らしぶりを伝えており、必要時には電話等でも報告をしている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議には家族の代表に参加をしてもらい意見や要望等を聴くように努めている。家族等の来訪時にも、健康状態や暮らしぶりを伝え、意見や要望も聴くようにしている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動や離職は最小限に抑えるように努めている。職員が代わった場合は、利用者へ説明し、先輩職員が対応の仕方等を指導しながら共に支援にあたり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	交換研修や接遇やケアプランについて、交換研修、医療安全にかかわる等の研修に参加をするようにしている。今後は計画を立て職員が参加しやすい方向を検討している。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、情報交換や交換研修等に参加をし、交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族等の見学を勧めており、自由にホーム内を見てもらっている。入所になってからは、職員や他の利用者、ホームの雰囲気に馴染めるよう家族の協力を得ながら工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、共に支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉かけを行い、把握に努めている。言葉や表情などから推測し、それとなく確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等の意向を聴き、介護計画に反映させている。職員の気づきや情報は申し送りノートに記載し、それを基に介護計画に反映させて作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3か月に1度と状態の変化に応じて行っている。	○	介護計画の見直しは3ヶ月に1回と状態の変化に応じて行なっているので、今後は月1回のモニタリングを実施されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援には柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人、家族の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療が受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として「看取り同意書」を本人・家族に説明し、署名・捺印をもらっているため、職員全員・関係者は内容について共有している。また、状態に応じ、その都度話し合いを行い、納得のいく支援をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー確保には、記録物や特に言葉づかい等に配慮した支援をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にするように努めており、食事もゆっくりご自分のペースで召し上がって頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえには、利用者と職員が一緒に行うようにしており、味見や盛り付け、片付け等手伝ってもらっている。職員は同じテーブルと一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日やシャワー浴等は決めており、状態に応じて、全身清拭、洗浄等を行っている。入浴日にタイミングや希望を確認して入ってもらっている。	○	入浴日やシャワー浴等の曜日が決めてあるが、入浴を楽しめるような支援はしている。今後は利用者の希望・タイミングにより、入りたい時に入れる日を設ける等の工夫も期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干す、たたむ、買い物、野菜の皮むき、味付け、盛り付け、居室の掃除、観葉植物の水やり、ドライブ、季節の花見、祭り、お地藏様参り、外食等で役割や楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ、ベランダで過ごす等で心身の活性につながるよう支援をしている。また、家族と共に外出等もしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は2階建ての2階の部分であり、家族に説明を行い承諾の基で、安全面に配慮しエレベーターに鍵をかけている。	○	一人ひとりのその日の気分や状態を把握し、職員の見守りの方法の工夫等を話し合い、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支えることを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回利用者と一緒に避難訓練、消火訓練を行っている。防災センターと契約を交わし安全体制に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックし記録を行い、職員は情報を共有している。個別では医師からの指示で減塩食の方については、母体の病院から食事が届き、健康管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはプランターに季節の花、ベランダには菊の花、ホール内はご飯の炊ける匂いや茶碗を洗う音等の生活感がある。ソファ、観葉植物等が置かれ居心地の良い環境となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理ダンス、テレビ、ワゴン、衣装箱、時計、テーブルと椅子、花籠、家族写真、化粧品、ポータブルトイレ等が持ち込まれており、本人が安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		